

ご挨拶

「住みたくなるまち 日本一」を目指して

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～



平成28年10月10日、宮城県内14番目の新市となった「富谷市」は、明治時代に富谷村として誕生して以来、昭和38年の町制施行や昭和・平成の大合併の際も一度も合併せずにまちづくりを行ってきました。

本市は、住宅地や商業施設などの都市機能と、大亀山森林公園をはじめとする豊かな自然、そして、江戸時代に奥州街道の宿駅として栄えた歴史ある街並みが現存する、バランスの取れた住みやすいまちです。

本市の人口は、大規模な宅地開発の進展による継続的な増加を続け、昭和35年から、令和2年までの60年もの間、増加を続けてきました。現在は、ユニセフが提唱する「子どもにやさしいまち」や、ゼロカーボンシティに向けた取組などを進めており、市の将来像に掲げる「住みたくなるまち 日本一」を目指して、まちづくりを推進しています。

この「暮らしのガイドブック」には、市役所窓口での各種手続き、子育て、福祉、ごみ、防災など、富谷市にお住いの皆様の日常生活に役立つ情報を掲載いたしました。ぜひお手元においていただき、行政サービスのご利用をはじめ日々の暮らしにお役立てください。

富谷市長 若生 裕俊

